

【参考作品】三年生【さすがのかあちゃん】

【はじめ】この本を選んだ理由・きっかけ

ぼくは、本を読むことが好きで、たくさんのおもしろそうな本の中から、どの本の感想を書けばよいのか、まよっていました。そんな時、お母さんが『かあちゃん取扱説明書』という本を買ってきてくれました。本のおびには、「中学年、夏に読みたいこの一さつ」と書いてあったので、ぼくにぴったりだと思って、わくわくしました。

【なか】お話のあらすじ、本を読んで考えたこと

この本は、てつやのおもしろいお話から、人の気持ちを考えることの大切さに気がつける本だと思います。本を読んだ後、ぼくもお母さんの一日の行動をかんさつしてみました。ぼくよりも早くおきて、ごはんを作り、せんたく、買い物、そうじ、ぼくや弟のべん強を見て、マスクを作ってくれて、毎日大へんなのだと気がつきました。お母さんは、自分のことを後回しにして、ぼくや弟のねがいをゆう先してくれていることに気がつき、ありがたいなと思いました。ぼくもてつやと同じで、お母さんに、「はやく〇〇しなさい。」と言われます。これからやろうとしていた時に言われると、とてもはらが立ちます。でも、少しおこられたぐらいはがまんしないといけないなと思いました。もつと考えてみると、お母さんがたいへんなのは、ぼくや弟のことを一番に考えて、成長してほしいとか、よい人生をおくってもらいたいとか、よい人になってもらいたいという思いがあるから、いろいろ手伝ってくれているのだと気がつきました。これは、ぼくや弟へのやさしさとあいなのだと思います。お母さんは、なぜこんなにやさしくしてくれているのだろうと考えました。たぶんお母さんも、ぼくのおじいちゃんや、おばあちゃんから同じようにあいされていたのだと思います。ぼくはこのとき、相手の気持ちをちゃんと考えて、やさしさやあいを感じることは、どんな伝わっていくものだと思います。おこられた後、いやな気持ちになったことばかり気になって、お母さんの本当の気持ちに気がつきませんでした。ぼくが通っていたようち園の園歌に「よくみる、よくきく、よくかんがえる」という歌があります。本当に大事なことだと思ひ出しました。さらに学校の友だちや、バスケのチームメイトに対して、いつもどのようなにしているのか考えてみました。バスケは一人ではできないスポーツです。し合中にチームメイトが何を考えているのかを考えることは、かちにつながると思ひました。

【結論・まとめ】本を読む前とかわった「自分の考え・ものの見方」

この本をきっかけに、いつもうるさいお母さんのやさしさに気がつけたことは、よかったです。ぼくも、自分のことばかり考えず、友だちやチームメイトをよくかんさつしてから、自分の気持ちを伝えて、行動するべきだと思ひました。友だちやチームメイトも、さらにその友だちに対して、かんさつしてやさしさを感ひすることができれば、世界中の人がやさしい気持ちになれるのではと思ひました。